



学内広報



2002. 1. 23
東京大学広報委員会



—英齋芳艶画「東海道之内 藤之杜走馬」

(28ページに関連記事)

目次

一般ニュース 2
 平成13年度運営諮問会議が開催される、評議会（12月18日（火））承認事項、平成14年度予算（案）の概要、入試事務室の設置

キャンパスニュース 5
 東京大学秋期環境整備実施される、平成13年11月1日現在学生数、平成13年度外国人学生数

部局ニュース 17
 東京大学史料編纂所史料集発刊100周年記念事業特別展『時を超えて語るもの—史料と美術の名宝—』を開催、利根川進 MIT教授 特別講義「脳科学の世紀」の開催、公開討論会「大学の教育研究体制と運営システム」の開催、工学系研究科で外国人留学生懇談会開かれる、2001年ゴードン・ベル賞受賞についての記者会見、附属水産実験所「浜名湖をめぐる研究者の会」を開催、

東アジア四大学フォーラム2001ハノイ会議が開かれる、大学院教育学研究科・教育学部 初の外国人留学生バス見学旅行実施される、医学部附属看護学校及び医学部附属助産婦学校の閉校について、近代医科学記念館開設記念式典が開かれる、技術職員研修「真空技術関係」行われる

掲示板 24
 総合図書館備付け図書の推薦について、小石川植物園後援会主催第33回講演会のお知らせ、「教養学部報」第453号（1月9日）号の発行、第14回保健センター公開健康講座、Web of ScienceからOPACへのリンク機能追加のお知らせ、データベース講習会のお知らせ

事務連絡（人事異動） 27
 討報（中尾喜久名誉教授、三枝正裕名誉教授、近藤一夫名誉教授、福田仁志名誉教授） 29

淡青評論「東大型PBL教育導入の奨め」 ... 32

≡ 一般ニュース ≡

平成13年度運営諮問会議が開催される

1月9日(水)午前10時から、本部庁舎5階特別会議室において第2回運営諮問会議が開催された。出席者は、同会議のアンドルー・ゴードン(ハーバード大学ライシャワー研究所長)、牛尾治朗(ウシオ電機株式会社代表取締役会長、社団法人経済同友会特別顧問、内閣府経済財政諮問会議議員)、利根川進(マサチューセッツ工科大学学習と記憶センター長)、吉川弘之(産業技術総合研究所理事長、日本学術振興会会長、日本学術会議会長、国際科学会議会長)各委員、大学側は佐々木総長、小間、宮島副学長、廣渡総長特別補佐、石川広報委員長、坂本事務局長、また、諮問事項に関係する学部長・研究所長等として小宮山工学部長、古田教養学部長、岡本数理科学研究科長、坂内生産技術研究所長であった。

会議では、佐々木総長から諮問された「本学では今後の教育体制の検討に着手したところであるが、組織及び教官個人の教育評価のあり方はどうあるべきか。」及び「本学の社会連携(産学連携)について、その基本的スタンスをどう考えるべきか。また、社会連携(産学連携)のアウトプットとして何が期待されるか。」等について、吉川議長の進行により、各委員からそれぞれの視点での意見が述べられた。



評議会(12月18日(火))承認事項

評議会内規の一部改正

東京大学評議会内規の一部を改正する規則

本学に、新たに名誉博士称号授与制度が創設され、東京大学名誉博士称号授与規則が制定されたことに伴い、名誉博士に関する事項を評議会における審議事項とし、また、議決をする際の定足数及び議決の方法の特例について定めるため、所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成13年12月18日から施行する。

学術研究奨励資金実施委員会規則の一部改正

東京大学学術研究奨励資金実施委員会規則の一部を改正する規則

平成13年度に大学院情報理工学系研究科が新設されたことに伴い、同研究科から委員を選出するため、所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成13年12月18日から施行する。

東京大学学生生活委員会規則の制定

全学委員会の再編見直しに関し、先ごろ全学委員会再編WGにおいて報告書を取りまとめ、その報告書をふまえて、学生関係委員会を再編統合するため、この規則が制定された。

東京大学学生生活委員会規則

(設置)

第1条 東京大学に、東京大学学生生活委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 委員会は、総長の管理の下に次に掲げる事項及びこれに関連する事項について連絡審議する。

- (1) 学部学生、大学院学生、研究生等の学内活動に関すること。
- (2) 奨学金及び学資貸付金並びに入学料及び授業料免除に関すること。
- (3) 学寮に関すること。
- (4) 就職に関すること。
- (5) 学生相談所の運営に関すること。
- (6) 体育保健衛生に関すること。
- (7) 身体障害者の支援に関すること。
- (8) 学生生活の実態調査に関すること。
- (9) その他学生生活上必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員長は、総長が指名する副学長をもって充てる。

2 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

(委員)

第5条 委員は、次の各号に掲げる者に総長が委嘱する。

- (1) 大学院各研究科(研究科以外の教育研究上の基本となる組織を含む。)から推薦された教授又は助教授 各1名
- (2) 保健センター所長
- (3) 留学生センター長
- (4) 学生相談所所長

- (5) 学生部長
 (6) その他総長が必要と認めた本学教職員
 (委員の任期)
- 第6条 前条第1号及び第6号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 前項に定める委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 (招集及び議長)
- 第7条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
 (部会等)
- 第8条 委員会の下に、特定の事項を処理させるため、次に掲げる部会並びに学生生活調査室及び学生相談所
 (以下「部会等」という。)を置く。
 (1) 奨学部会
 (2) 学寮部会
- 2 前項のほか、必要があるときは、各種ワーキング・グループを置くことができる。
- 3 前2項に規定する部会等及び各種ワーキング・グループの任務、組織及び運営に関しては、委員会が別に定める。
 (庶務)
- 第9条 委員会の庶務は、事務局学生部において処理する。
 (補則)
- 第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の定めるところによる。
- 附 則
- 1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 次に掲げる規則は、廃止する。
 (1) 東京大学学生委員会規則(昭和25年4月7日制定)
 (2) 大学院学生委員会規程(昭和44年9月30日制定)
 (3) 東京大学学生生活実態調査委員会規則(昭和42年4月25日制定)
 (4) 東京大学学生相談所委員会規則(昭和39年2月18日制定)
 (5) 奨学委員会規則(平成7年3月7日制定)
 (6) 東京大学学寮委員会規則(昭和25年3月6日制定)
 (7) 保健委員会規程(昭和21年12月10日制定)
 (8) 精神衛生対策特別委員会内規(昭和37年2月13日制定)
 (9) 有害物取扱者健康管理特別委員会内規(昭和39年3月24日制定)
 (10) 東京大学学歌学生歌選定委員会規程(昭和21年6月1日制定)
- 3 東京大学学生相談所規則(昭和62年1月20日制定)の一部を次のように改正する。
 題名を次のように改める。
 東京大学学生生活委員会学生相談所内規
 第1条中「東京大学(以下「本学」という。)」に「東京大学学生生活委員会規則第8条に基づき、」

に改める。

第3条第2項中「本学」を「東京大学」に改める。

第5条を削る。

第6条中「委員会委員」を「学生生活委員会委員」に改め、「保健センター」の次に「、ハラスメント相談所」を加え、同条を第5条とする。

第7条を第6条とし、第8条を第7条とし、第9条中「規則」を「内規」に改め、「(第5条に定めるものを除く。)」を削り、「所長」を「東京大学学生生活委員会の議を経て、所長」に改め、同条を第8条とする。

リサーチフェロー実施要領の制定

本学における学術研究支援体制の一層の充実・強化及び人材養成に資するため、委任経理金により優秀な若手研究者を「リサーチフェロー」として雇用するための必要な事項を定めるため、この要領が制定された。

東京大学リサーチフェロー実施要領

(趣旨)

第1 この要領は、東京大学における学術研究支援体制の一層の充実・強化及び人材養成に資することを目的とする若手研究者の雇用に関し必要な事項を定めるものとする。

(名称)

第2 前項の若手研究者の名称は、リサーチフェローとする。

(雇用)

第3 リサーチフェローの雇用は、委任経理金により行うものとする。

(職務)

第4 リサーチフェローは、本学における特定の研究プロジェクトを推進するため、一定の職務を分担し研究に従事するものとする。

(対象者)

第5 対象者は、次の区分による。

- (1) 原則として採用初年度の4月1日現在年齢35歳未満で、特定の研究プロジェクトの遂行上必要な能力を有すると部局長が認める若手研究者
 (2) 大学院博士後期課程に在籍する学生

(身分)

第6 リサーチフェローは、非常勤職員とする。ただし、前項第2号に規定する者にあつては、常勤職員の1週間当たりの勤務時間の4分の3を超えない範囲内とする。

(選考)

第7 選考は、各部局において行うものとする。

(任期)

第8 任期は、当該会計年度を超えない範囲内とし、任用を更新する場合は、通算して3年を原則とする。た

だし、特別な事情がある場合には、5年を限度とする。
(任用及び給与等)

第9 任用及び給与等の事務手続きについては、事務局長が別に定めるものとする。

(補則)

第10 この要領に定めるもののほか、リサーチフェローの実施に関して必要な事項は、別に定めるものとする。

附 則

この要領は、平成13年12月18日から実施する。

名誉教授称号授与規則の一部改正

東京大学名誉教授称号授与規則の一部を改正する規則

昨年度から引き続き検討課題とされた名誉教授制度に関する事項について、評議会の下に「名誉教授制度検討委員会」を設置し、学校教育法の一部改正の主旨もふまえ種々検討し、名誉教授の資格要件や名誉教授の推薦にかかる事項等の検討結果を評議会に報告し、承認が得られたため、所要の改正が行われた。

附 則

- 1 この規則は、平成14年2月1日から施行する。
- 2 この規則は、平成14年3月31日以降に退職等する者に適用する。ただし、平成14年3月30日以前に退職等した者については、なお、従前の例による。

平成14年度予算(案)の概要

平成13年12月24日に政府案が決定された。このうち、本学関係の主な新規事項は次のとおり。

- 専攻の新設
 - 〔工 学 系〕 マテリアル工学専攻の新設
(金属工学専攻、材料学専攻の統合)
 - 〔人文社会系〕 韓国朝鮮文化研究専攻の新設
(文化交流研究施設朝鮮文化部門の廃止)
- 専攻の整備
 - 〔医 学 系〕 健康科学・看護学専攻の整備
(看護学校及び助産婦学校の廃止関連)
 - 〔総 合 文 化〕 言語情報科学専攻の整備
(日韓言語エコロジー研究講座の設置)
- 附属施設の新設等
 - 〔全 共〕 大規模集積システム設計教育研究センターの整備(流動)
 - 〔学 共〕 原子力研究総合センターの整備(客員)
 - 〔学 共〕 人工物工学研究センターの新設
(人工物工学研究センターの廃止)
 - 〔本 院〕 特殊診療施設の新設(感染制御部)

〔本 院〕 助産婦学校の募集停止
〔生 研〕 流動部門への定員振替
(総合地球環境学研究所)

- 副学長の設置
- 入学定員の改訂
 - 〔医 学 系〕 協力講座の整備(1専攻)
 - 〔工 学 系〕 協力講座の整備(2専攻)
 - 〔新 領 域〕 連携講座の整備(2専攻)
 - 〔文 学 部〕 言語文化学科 △10
- そ の 他
 - 東京大学柏地区等整備計画策定調査経費
事務機構の整備(総務部情報企画課の設置)

入試事務室の設置

平成14年度入学試験に関する事務を処理するため、1月1日(火)から3月31日(日)までの間、入試実施委員会のもとに、入試事務室が設置される。

入試事務室は、入試課長を室長に室長補佐及び室員若干名をもって構成される。

室員は、入試課職員のほか、総務部、経理部、施設部、学生部、研究協力部等から派遣される事務職員で、およそ3ヶ月にわたり、入学試験に関する業務にあたる。

≡ キャンパスニュース ≡

東京大学秋期環境整備実施される

本年度秋期環境整備週間は、平成13年11月28日（水）から12月4日（火）に設定され、学内の環境整備が全学的に実施されました。今回は、教職員約2,100名のほか、各学部・研究科・研究所・センター所属の学生・大学院生等約2,450名、さらに運動部・文科系サークル所属の学生約50名の参加があり、各建物周辺をはじめ三四郎池や各運動施設、その他諸施設周辺の美化につとめました。

また、今回初めて、佐々木総長から学生の皆さんへ「キャンパスの環境美化を手伝ってみませんか！」とクリーンキャンパスボランティアの募集案内を学内掲示板及び学生部ホームページ上で行ったところ、法学部の学生1名と文京区の環境ネットワーク会議、自然を育む会のメンバーなど区民5名の方々から協力の申し出があり、教職員と一緒に環境整備に従事し、構内がみちがえるようにきれいになりました。



平成13年11月1日現在学生数

—学部学生15,458人、大学院学生11,353人、研究生等936人—

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の学生数を調査し「学内広報」に掲載している。本年11月1日現在の学生数は次のとおりである。

平成13年11月1日現在 学部学生・研究生・聴講生数調

種別 入進学 年度別 性別 学部・課程別	在籍者													在籍者のうち、外国人学生及び休学者 (再掲)						研究生			研究生のうち 外国人 (再掲)			聴講生			
	平成13年度		平成12年度		平成11年度 (以前)		平成10年度		平成9年度 以前		小計		合計	外国人学生			休学者			男			女			計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
															男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
前期課程・教養学部	2,719	593	2,682	618	433	38	-	-	-	-	5,834	1,249	7,083	86	51	137	33	7	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
後期課程	法学部	508	107	544	103	350	79	-	-	-	-	1,402	289	1,691	6	4	10	23	2	25	-	-	-	-	-	-	20	3	23
	医医学部	83	21	83	18	83	22	79	23	9	1	337	85	422	1	1	2	6	1	7	37	15	52	0	0	0	-	-	-
	健康科学・看護学科	23	18	26	19	5	3	-	-	-	-	54	40	94	0	1	1	1	0	1	19	29	48	0	0	0	-	-	-
課程	工学部	876	63	912	81	160	9	-	-	-	-	1,948	153	2,101	59	12	71	27	4	31	12	4	16	1	1	2	5	2	7
	文学部	275	112	263	119	132	40	-	-	-	-	670	271	941	3	0	3	21	9	30	7	7	14	0	1	1	-	-	-
	理学部	304	30	295	33	46	4	-	-	-	-	645	67	712	12	2	14	11	0	11	0	0	0	0	0	0	5	2	7
課	農学部	220	66	213	70	39	3	-	-	-	-	472	139	611	0	1	1	7	1	8	6	4	10	0	0	0	0	0	0
		16	15	21	12	21	7	17	16	0	0	75	50	125	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	-	-	-
	経済学部	313	50	314	48	99	11	-	-	-	-	726	109	835	8	7	15	7	2	9	-	-	-	-	-	-	5	0	5
程	教養学部	137	50	130	59	57	21	-	-	-	-	324	130	454	0	7	7	6	4	10	11	4	15	1	0	1	7	8	15
	教育学部	53	38	66	30	20	10	-	-	-	-	139	78	217	1	0	1	6	2	8	9	7	16	0	1	1	-	-	-
	薬学部	54	28	67	19	3	1	-	-	-	-	124	48	172	0	0	0	4	0	4	4	1	5	0	0	0	1	2	3
小計	2,862	598	2,934	611	1,015	210	96	39	9	1	6,916	1,459	8,375	90	35	125	119	25	144	107	71	178	2	3	5	43	17	60	
合計	5,581	1,191	5,616	1,229	1,448	248	96	39	9	1	12,750	2,708	15,458	176	86	262	152	32	184	107	71	178	2	3	5	43	17	60	

備考) 1. 農学部の上段は獣医学課程を除く各課程の合計数を、下段は獣医学課程の数を示す。
 2. 平成11年度(以前)の欄については、医学部医学科・農学部獣医学課程は平成11年度入進学者のみ、他の学部学科は平成11年度以前の入進学者数を示す。

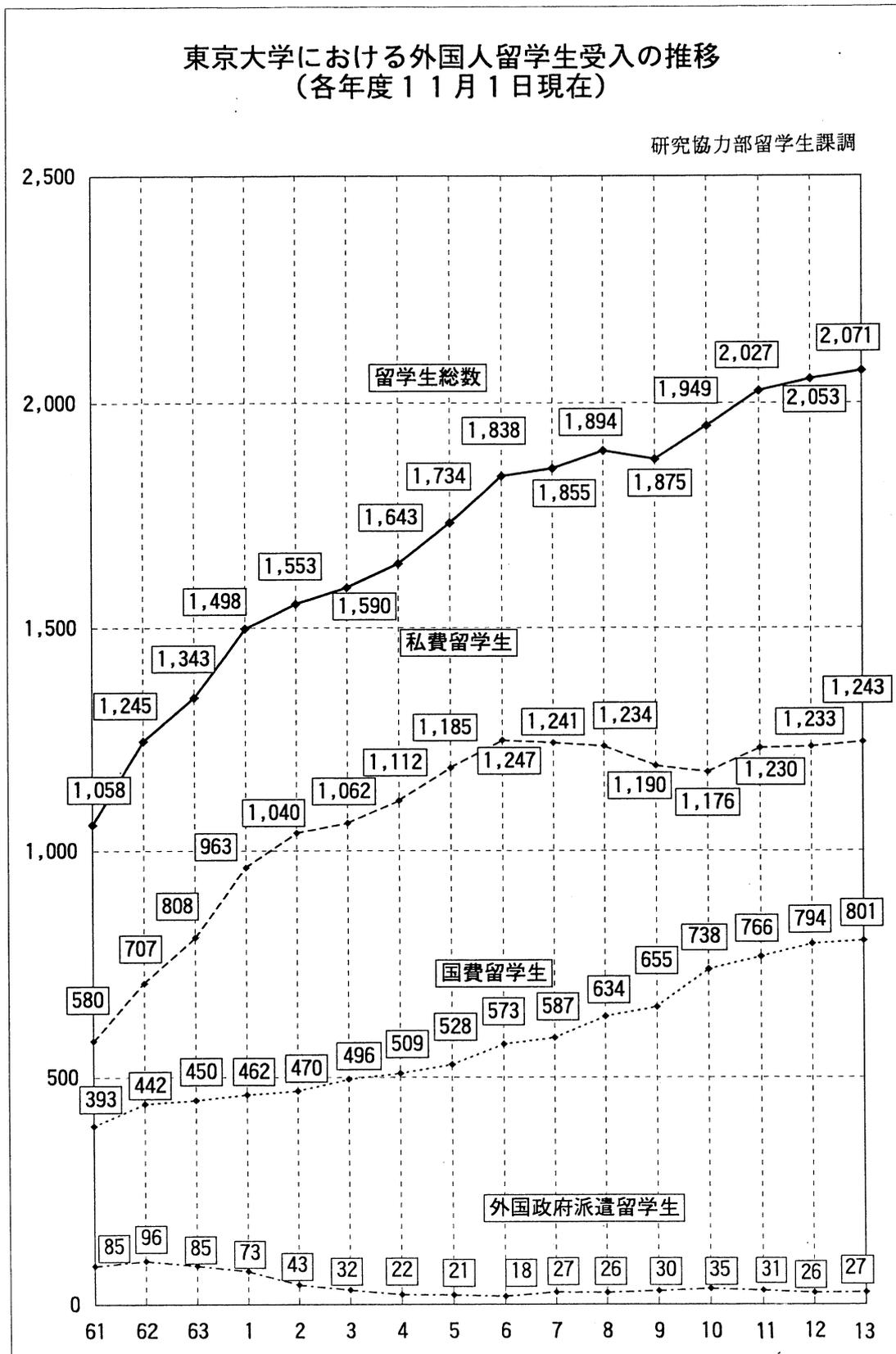
平成13年11月1日現在 大学院学生・研究生・外国人研究生数調

研究科等名	種別 課程別 入進学年度 性別	在籍者																		在籍者のうち 外国人学生(再掲)				在籍者のうち 休学者(再掲)				大学院 外国人 研究生			大学院 研究生			特別 研究生													
		修 士 課 程									博 士 後 期 課 程									修 士		博士後期		修 士		博士後期		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計								
		13年度			12年度			11年度以前			小 計			計	13年度			12年度			11年度			10(5)年度以前			小 計													計	修 士		博士後期		修 士		博士後期
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男		女	計					
人文社会系		97	70	94	59	49	25	240	154	394	76	45	65	48	74	51	105	99	320	243	563	957	20	30	30	56	136	12	8	73	70	163	58	35	93	11	14	25	0	0	0	(2)	(2)	(4)			
教育学		25	25	24	23	7	5	56	53	109	12	23	21	12	16	13	16	31	65	79	144	253	5	9	8	12	34	0	4	10	22	36	7	24	31	11	11	22	0	0	0	(3)	(1)	(4)			
法学政治学		51	22	52	26	13	4	116	52	168	15	7	12	4	15	4	18	10	60	25	85	253	10	7	10	3	30	6	1	7	4	18	19	11	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
経済学	区分	48	10	52	5	8	5	108	20	128	26	6	29	4	30	12	36	16	121	38	159	287	9	4	10	7	30	4	3	26	14	47	7	1	8	6	1	7	0	0	0	(1)		(1)			
	一貫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0	3	0	3	3	-	-	0	0	0	-	-	1	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総合文化		146	66	145	87	27	31	318	184	502	95	75	104	72	110	68	122	154	431	369	800	1,302	20	28	50	72	170	18	14	102	124	258	27	37	64	22	7	29	2	5	7	(3)		(3)			
理学系		276	92	314	72	20	4	610	168	778	165	41	179	33	176	43	74	13	594	130	724	1,502	10	7	27	13	57	12	4	15	8	39	11	1	12	19	3	22	9	3	12	(2)		(2)			
工学系		708	83	775	68	35	5	1,518	156	1,674	273	58	308	49	280	41	107	15	968	163	1,131	2,805	146	37	278	74	535	27	7	46	7	87	44	9	53	19	7	26	2		2	(10)	(3)	(13)			
農学生命科学	農学	207	113	212	113	16	4	435	230	665	114	33	132	52	107	45	46	22	399	152	551	1,216	23	19	68	44	154	18	6	16	6	46	15	20	35	13	8	21	2	3	5	(1)		(1)			
	獣医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	8	16	8	23	3	15	11	75	31	106	106	-	-	13	8	21	-	-	1	1	2	4	1	5	6	11	17	4	0	4						
医学系	医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	144	60	119	48	111	45	143	48	563	213	776	776	-	-	37	52	89	-	-	25	16	41	16	12	28	1	1	2	29	7	36				(1)	(1)	(2)
	保健学	17	39	25	37	4	2	46	78	124	8	22	7	22	4	19	0	8	19	71	90	214	8	13	5	6	32	1	9	1	11	22	3	8	11	0	5	5	0	3	3						
	医科学	13	5	9	8	1	0	23	13	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36	3	0	-	-	3	1	0	-	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
薬学系		58	29	65	24	1	0	124	53	177	39	15	37	13	37	7	6	0	119	35	154	331	3	1	8	7	19	5	2	4	1	12	1	1	2	1	0	1	9	3	12				(1)	(1)	(2)
数理科学		39	2	36	5	9	0	84	7	91	20	0	22	2	28	1	11	1	81	4	85	176	5	2	7	1	15	2	1	1	0	4	1	0	1	18	1	19	1	0	1						
新領域創成科学		295	84	229	68	27	2	551	154	705	93	26	-	-	-	-	-	-	93	26	119	824	37	16	11	3	67	14	4	2	0	20	13	3	16	7	2	9	1	1	2						
情報理工学系		152	6	-	-	-	-	152	6	158	50	2	-	-	-	-	-	-	50	2	52	210	9	2	12	2	25	2	0	2	0	4	16	2	18	2	0	2	0	0	0						
学際情報		32	18	26	26	-	-	58	44	102	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	102	4	6	-	-	10	2	0	-	-	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0						
合計		2,164	664	2,058	621	217	87	4,439	1,372	5,811	1,149	421	1,051	367	1,011	352	750	441	3,961	1,581	5,542	11,353	312	181	574	360	1,427	124	63	332	284	803	243	166	409	134	71	205	59	25	84	(22)	(6)	(28)	(2)	(2)	(4)

備考 1. 経済学研究科における5年一貫博士課程の平成5年度以前入学者については、博士後期課程欄の()内の入学年度の欄に示す。
 2. 農学生命科学研究科、医学系研究科の下段学生数は、平成9年度以前の入学者を示し、外数である。
 3. 大学院研究生、特別研究生欄の()内は、外国人を示し内数である。

平成13年度外国人学生数—国費外国人留学生801人、私費外国人留学生1,243人、外国政府派遣留学生27人、在日外国人留学生107人—

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の外国人学生数を調査し、「学内広報」に掲載している。本年11月1日現在の学生数は、次のとおりである。



平成 13 年 度 外 国 人 学 生 数

平成13年11月1日現在

区 分	学 部				大 学 院								研 究 所 等		合 計	
	学 生		研 究 生 等		修 士 課 程		博 士 課 程		外 国 人 研 究 生 等		大 学 院 研 究 生		研 究 生		男	女
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
国 費 (a)	75	35	0	0	118	51	225	103	118	63	10	3	0	0	546	255
	110		0		169		328		181		13		0		801	
外 国 政 府 派 遣	イ ン ド ネ シ ア	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3	1
		1		0		2		0		1		0		0		4
	シ ン ガ ポ ー ル	7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1
		8		0		1		0		0		0		0		9
	タ イ	2	3	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0	6	5
		5		0		0		6		0		0		0		11
	マ レ ー シ ア	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		2		0		0		0		0		0		0		2
	韓 国	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		1		0		0		0		0		0		0		1
計 (b)	12	5	0	0	2	1	4	2	1	0	0	0	0	19	8	
	17		0		3		6		1		0		0		27	
私 費 (c)	28	30	14	18	174	121	323	244	115	96	11	3	9	9	674	521
	58		32		295		567		211		14		18		1,195	
小 計 (d) ((a)+(b)+(c))	115	70	14	18	294	173	552	349	234	159	21	6	9	9	1,239	784
	185		32		467		901		393		27		18		2,023	
私 費 (e) (在留資格「留学」以外の者)	4	2	0	0	4	4	9	6	6	8	1	0	4	0	28	20
	6		0		8		15		14		1		4		48	
外 国 人 留 学 生 合 計 (f) ((d)+(e))	119	72	14	18	298	177	561	355	240	167	22	6	13	9	1,267	804
	191		32		475		916		407		28		22		2,071	
在 日 外 国 人 学 生 (g)	56	14	1	0	14	3	13	5	1	0	0	0	0	85	22	
	70		1		17		18		1		0		0		107	
外 国 人 学 生 総 計 ((f)+(g))	175	86	15	18	312	180	574	360	241	167	22	6	13	9	1,352	826
	261		33		492		934		408		28		22		2,178	

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成13年11月01日現在

区 分	学 部				大 学 院								研究所等		小 計		合 計
	学 生		研究 生 等		修 士 課 程		博 士 課 程		外 国 人 研 究 生 等		大 学 院 研 究 生		研 究 生		国 費	私 費	
	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費			
学部																	
教養学部	65	36		29											65	65	130
法学部	3	2													3	2	5
医学部																	
工学部	30	29		2											30	31	61
文学部	1														1		1
理学部	5	5													5	5	10
農学部		1														1	1
経済学部	6	8													6	8	14
教育学部				1												1	1
薬学部																	
小 計	110	81		32											110	113	223
大学院																	
人文社会系研究科					10	40	15	69	45	47		4			70	160	230
教育学研究科					2	11	3	17	7	24		4			12	56	68
法学政治学研究科					4	13	5	7	14	16					23	36	59
経済学研究科					7	5	7	10	5	2		1			19	18	37
総合文化研究科					19	28	18	99	26	37		3			63	167	230
理学系研究科					6	7	19	21	9	3		2			34	33	67
工学系研究科					80	97	161	187	26	27	13				280	311	591
農学生命科学研究科					9	32	57	75	11	28		1			77	136	213
医学系研究科					3	19	17	79	11	28					31	126	157
薬学系研究科					2	2	8	7		4					10	13	23
数理科学研究科					3	4	5	3	1						9	7	16
新領域創成科学研究科					17	34	7	6	11	5					35	45	80
学際情報学府					1	9			2						3	9	12
情報理工学系研究科					6	5	6	8	13	5					25	18	43
小 計					169	306	328	588	181	226	13	15			691	1,135	1,826
研究所等																	
医科学研究所														8		8	8
地震研究所																	
社会情報研究所																	
生産技術研究所													11		11	11	11
分子細胞生物学研究所													1		1	1	1
物性研究所													1		1	1	1
海洋研究所																	

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成13年11月01日現在

区 分	学 部				大 学 院								研 究 所 等		小 計		合 計	
	学 生		研 究 生 等		修 士 課 程		博 士 課 程		外 国 人 研 究 生 等		大 学 院 研 究 生		研 究 生		国 費	私 費		
	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費				
先端科学技術研究センター															1		1	1
小 計															22		22	22
合 計	110	81		32	169	306	328	588	181	226	13	15		22	801	1,270	2,071	

(注) ①外国政府派遣学生は、私費の欄に含む。

全学生数に対する外国人留学生数の比率

事 項	A 全学生数 人	B 日本人学生 人	C 外国人留学生 人	C/A 比 率	平成12年度 比 率
学部レベル	15,696	15,473	223	1.42%	1.31%
大学院レベル	12,047	10,199	1,848	15.34%	15.79%
計	27,743	25,672	2,071	7.46%	7.43%

※日本人学生欄には在日外国人(107人)を含む。

※研究所に所属する研究生は、大学院レベルに含む。

※比率欄の数は四捨五入。

国又は地域別外国人留学生数

平成13年11月01日現在

国名 又は 地域名	国 費					私 費					合 計					総 計			
	学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等						
	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等				
アジア																			
パキスタン			3	4	2	9			1	1		2			4	5	2	11	
インド			1	3	3	7			2	1		3			3	4	3	10	
ネパール			1	4		5			5		1	6			6	4	1	11	
バングラデシュ	2		2	14	3	21	1		2	5	3	11	3		4	19	6	32	
スリランカ	1			4		5			5	4	1	10	1		5	8	1	15	
ミャンマー	1		1	3		5			3		2	5	1		4	3	2	10	
タイ	4		15	33	9	61	6		8	29	6	49	10		23	62	15	110	
マレーシア	9		10	6	1	26	4	1	2	3	1	11	13	1	12	9	2	37	
シンガポール	13		2		1	16	8		3	1		12	21		5	1	1	28	
インドネシア	17		13	16		46	2	1	7	17	4	31	19	1	20	33	4	77	
フィリピン	1			7	4	12		1				2	3	1	1		7	6	15
カンボジア	1					1			3			3	1		3			4	
韓国	4		40	67	20	131	8	3	73	209	69	362	12	3	113	276	89	493	
モンゴル	8		4	1	3	16			1			1	8		5	1	3	17	
ベトナム	20		4	12	3	39	3	2	8	2	1	16	23	2	12	14	4	55	
中国			9	68	43	120	48	7	137	217	119	528	48	7	146	285	162	648	
中国(香港)	2		2	1		5				4	1	5	2		2	5	1	10	
マカオ									2			2			2			2	
ラオス	1					1			1			1	1		1			2	
台湾									35	52	24	111			35	52	24	111	
小 計	84		107	243	92	526	80	15	298	545	234	1,172	164	15	405	788	326	1,698	
中近東																			
イラン	1		1	8		10				6		6	1		1	14		16	
トルコ	1			5	6	12	1		1		2	4	2		1	5	8	16	
レバノン			2	1	1	4									2	1	1	4	
イスラエル			1		3	4									1		3	4	
オマーン			1			1									1			1	
小 計	2		5	14	10	31	1		1	6	2	10	3		6	20	12	41	
アフリカ																			
エジプト				7	2	9				8	1	9				15	3	18	
チュニジア					1	1											1	1	
アルジェリア			1	1		2									1	1		2	
ケニア			1			1									1			1	
コンゴ民主共和国				1		1										1		1	
ナイジェリア	1					1							1					1	
カメルーン				1		1										1		1	
モロッコ	1			1		2							1			1		2	
エチオピア										1		1				1		1	
マリ										1		1				1		1	
小 計	2		2	11	3	18				10	1	11	2		2	21	4	29	
オセアニア																			
オーストラリア	5		2	1	5	13		1		2		3	5	1	2	3	5	16	
ニュージーランド	1		3	2	2	8		3				3	1	3	3	2	2	11	

国又は地域別外国人留学生数

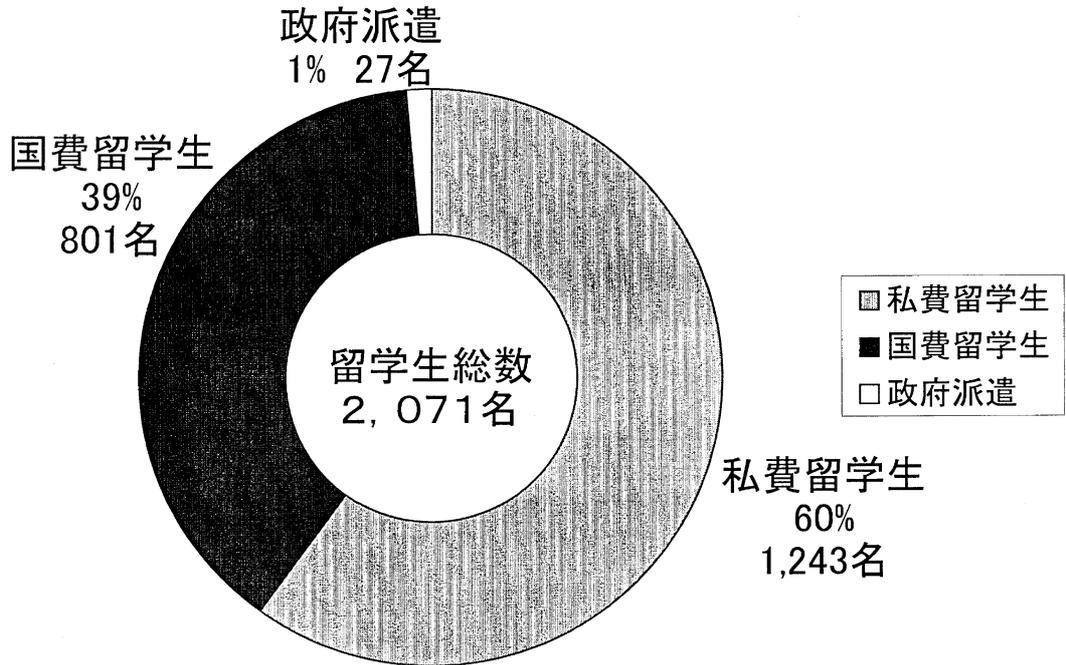
平成13年11月01日現在

国名 又は 地域名	国 費					私 費					合 計					総 計
	学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等			
	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	
ロシア	1		4		2			1	1	1			5	1	3	10
スロバキヤ				1										1		1
ウクライナ				2	2									2		4
ウズベキスタン			1		1								1		1	2
スロベニア			1										1			1
マケドニア			1	1									1	1		2
トルキス	1							2					2			3
小 計	12		29	32	52		8	3	16	11			32	48	63	163
合 計	110		169	328	194		81	32	306	588			191	32	475	2,071

82 各国・地域

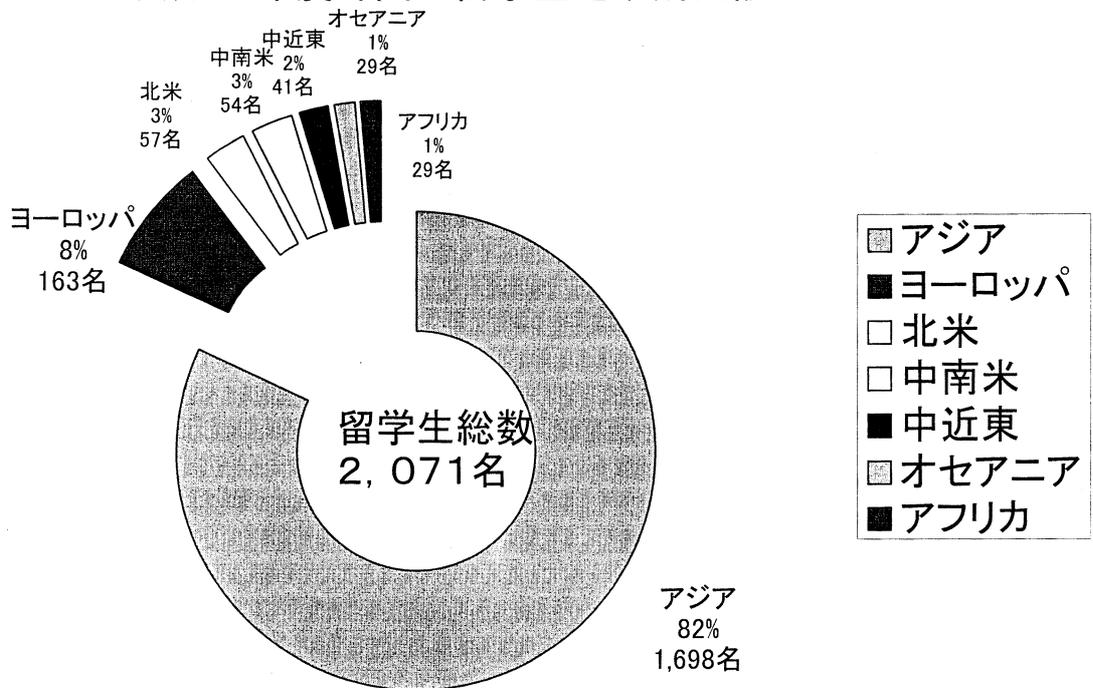
平成13年度外国人留学生種別内訳

平成13年11月1日現在



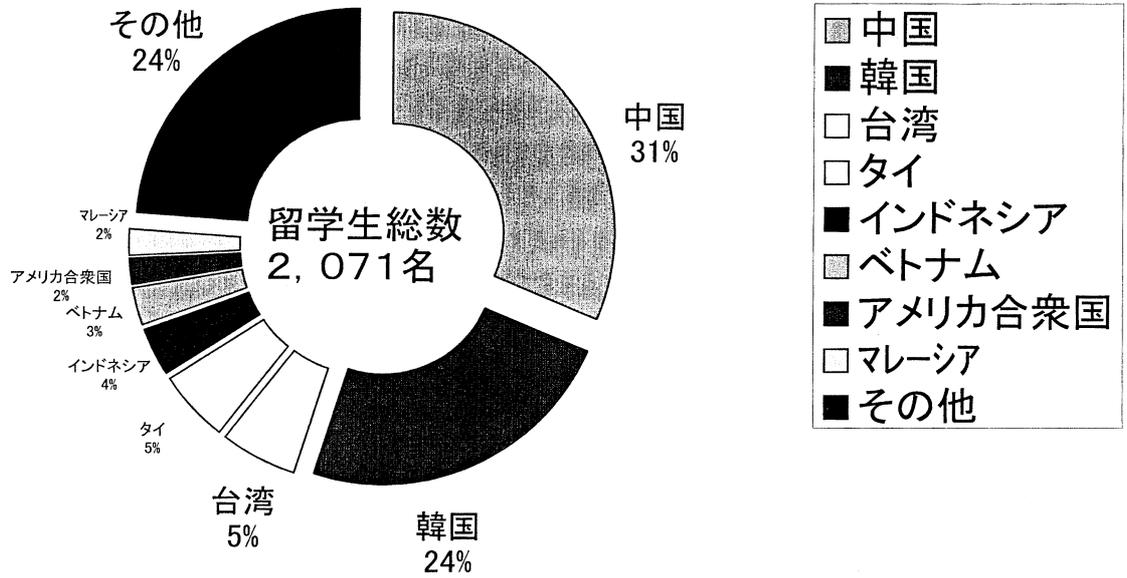
平成13年度外国人留学生地域別内訳

平成13年11月1日現在



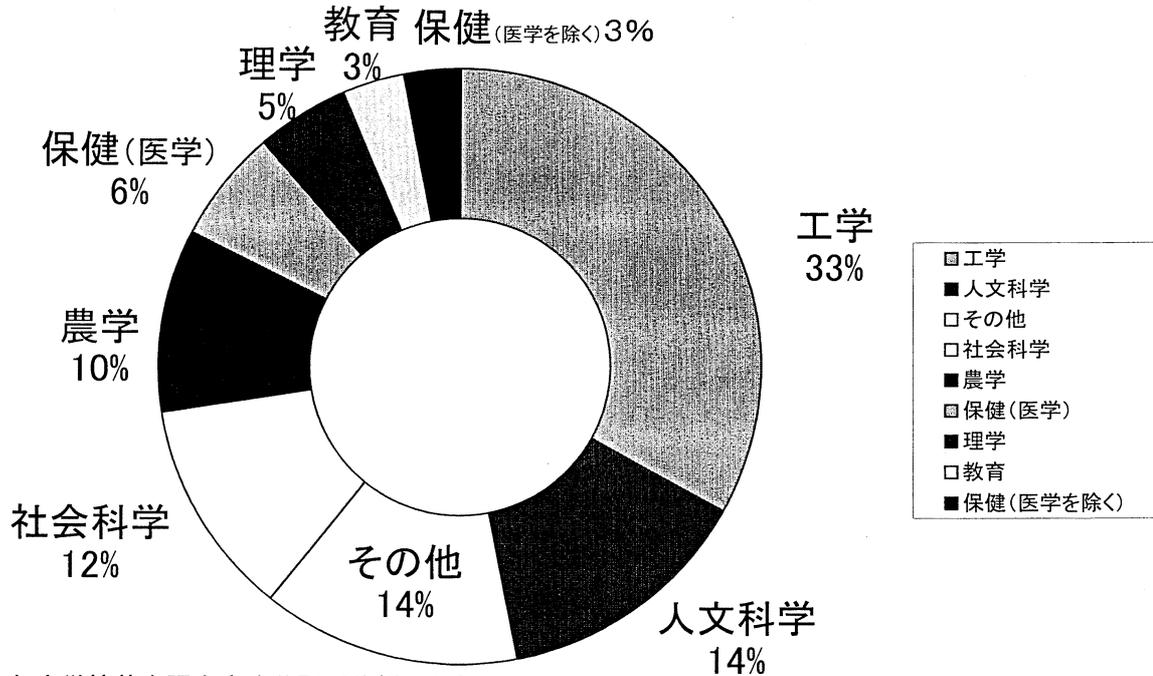
平成13年度外国人留学生国籍別内訳

平成13年11月1日現在



平成13年度外国人留学生専攻分野内訳

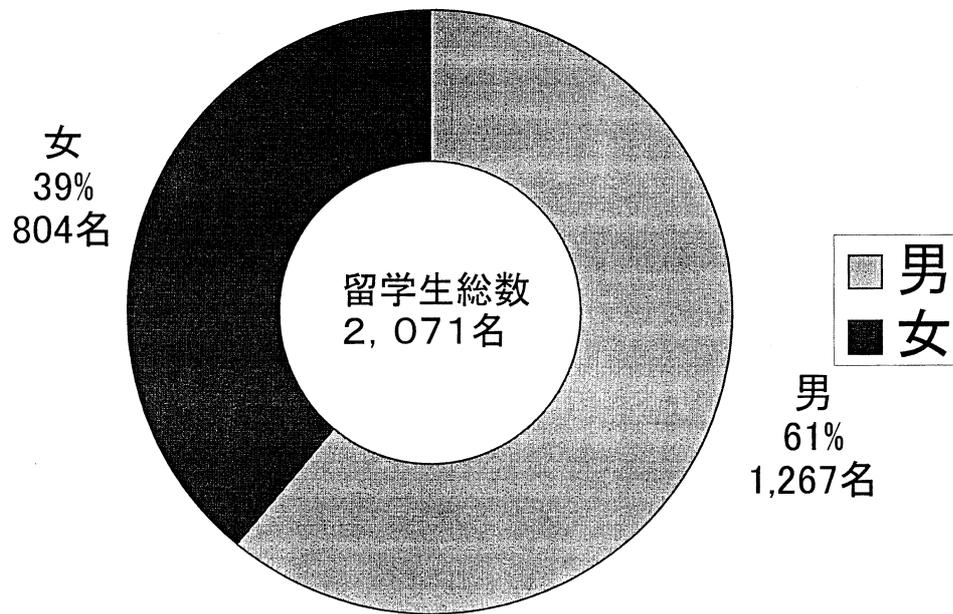
平成13年11月1日現在



※平成13年度学校基本調査専攻分野別分類による

平成13年度外国人留学生男女別内訳

平成13年11月1日現在



≪ 部局ニュース ≫

東京大学史料編纂所史料集発刊100周年記念事業特別展『時を超えて語るもの—史料と美術の名宝—』を開催

東京大学史料編纂所は、このたび東京国立博物館との共催で、東京大学史料編纂所史料集発刊100周年記念事業の一環として企画した特別展『時を超えて語るもの—史料と美術の名宝—』を開催している。

史料編纂所は、1901年（明治34年）の2月、日本史研究のための基本的史料集『大日本史料』を、ついで7月には『大日本古文書』の刊行を開始し、今日までその数は1000冊を超えるにいたっている。

これら史料集の刊行は、1885年（明治18年）から本格的に開始された、史料の調査・蒐集、それにもとづいた史料研究の蓄積の上に成り立っている。

史料編纂所は、明治以来、史料原本は現地において原則保存するという方針のもと、史料集編纂のため、国内外から膨大な史料を複本の形で蒐集し、その数は約17万点に及んでいる。またこれと並んで、約20万点を数える歴史的価値を有する史料原本、美術的価値の高い史料も数多く蒐集してきた。

これらの膨大な史料は、史料編纂所の図書室で公開を進め、毎年1万5千人以上の国内外の研究者・学生等が閲覧に訪れ、研究に利用されてきたが、国民のみなさんの前に共有の文化資産として広く公開するにはいたっていなかった。

今回、史料集発刊100周年を記念し、東京大学史料編纂所と東京国立博物館との共催という新しい連携の形で特別展を開催し、これら貴重な史料を一堂に集め公開するに至ったものである。

今回展示している作品は、史料編纂事業の過程で集められた古文書・古記録・絵図・肖像画・絵巻などの史料と、これに関連する東京国立博物館の美術品を中心に、国宝・重要文化財を含む160点余に及んでいる。

また今回の展示は、史料編纂所が、過去100年にわたり進めてきた、蒐集史料の研究にもとづく、日本史研究の基礎となる史料編纂という研究活動のあゆみを紹介するものでもある。

史料編纂所においては、附属施設「画像史料解析センター」を中心として、画像史料を研究対象とする歴史学の新しい方法を模索する試みを、絵画史料原本を所蔵する他の機関との連携のもとで進め、またコンピュータを活用した歴史情報研究という新しい研究事業にも取り組んでいる。これらの研究成果に関わるマルチメディア展示が、歴史学の将来像に思いを馳せていただける機会にもなれば幸いである。

史料編纂所は、これまでの活動の蓄積と新しい研究事業によって、学界・社会に開かれた研究所として二十一世紀にも発展することをめざして努めていきたいと考えている。

なお、一般公開に先立ち、12月10日（月）午後2時から、東京国立博物館平成館において特別展「時を超えて語るもの—史料と美術の名宝—」の開会式及び内覧会を行い、出席者は、学内から佐々木総長、廣渡総長特別補佐、坂本事務局長及び関係教官等、学外からは、吉川文部科学省研究振興局学術機関課長及び東京国立博物館の名誉館員・館友等併せて約700名であった。

また、12月17日（月）には皇太子殿下がこの特別展を鑑賞された。野崎東京国立博物館長、加藤史料編纂所所長、佐々木文化庁長官らが出迎え、黒田日出男史料編纂所教授、島谷弘幸東京国立博物館学芸部資料課長の説



「薩摩国絵図」をご覧になる天皇皇后両陛下



「御堂関白記」をご鑑賞になる天皇皇后両陛下



「薩摩国絵図」をご覧になる皇太子殿下



テープカット 左から佐々木東大総長、野崎東博館長、加藤東大史料編さん所長



藤原定家自筆申文を鑑賞する佐々木総長、加藤所長

明のもと、「紫式部日記絵巻」・「明月記」・「倭寇図巻」・「薩摩国絵図」などを、熱心にご鑑賞された。

さらに、1月11日（金）には天皇皇后両陛下がこの特別展を鑑賞された。野崎東京国立博物館長、佐々木東京大学総長、加藤史料編さん所長、佐々木文化庁長官及び坂本事務局長らが出迎え、黒田日出男史料編さん所教授、島谷弘幸東博学芸部資料課長の説明のもと、「御堂関白記」・「実隆公記」・「歴代亀鑑」・「琉球国絵図」などを、熱心にご鑑賞された。

（史料編さん所）

利根川進 MIT教授 特別講義「脳科学の世紀」の開催

1月8日（火）午後2時00分から、大講堂において利根川 進 マサチューセッツ工科大学教授、学習と記憶センター所長による特別講義「脳科学の世紀」（座長：廣川 信隆 医学系研究科教授）が開催されました。本講義には約1,000名の参加者が集まり、盛況なものとなりました。

また、講義終了後も利根川教授への質問を希望する学生が舞台前に列をつくったため、場所を移して同教授と学生（有志約30名）のディスカッションが行われました。利根川 進 教授の招へいは、昨年度から日本学術振興

会・外国人著名研究者招へい事業により行われており、来年度も来学される予定です。



公開討論会「大学の教育研究体制と運営システム」の開催

1月11日（金）午後3時00分から、大講堂において利根川 進MIT教授、加藤 紘一氏（ライフサイエンス推進議員連盟会長・衆議院議員）、立花 隆氏（評論家、元本学先端科学技術研究センター客員教授）、廣川 信隆 医学系研究科教授、黒田 玲子 総合文化研究科教授をパネリストに迎え、小間 副学長の司会により、公開討論会「大学の教育研究体制と運営システム」が開催されました。討論会ではパネリストのみならず会場からの質問や意見を交えて、現在の大学が抱える教育研究体



制・運営システムの問題点等が活発に議論されました。なお、参加者は約1,000名で、盛況を呈していました。

工学系研究科で外国人留学生懇談会開かれる

本年度10月入学の外国人留学生を歓迎する趣旨の懇談会が、12月7日（金）午後6時から生協第二食堂においておこなわれた。

大学院工学系研究科・工学部には、29か国88人が10月1日に入学し、現在約60か国約670人の留学生が所属し国際色豊かな研究科となっている。本懇談会には外国人留学生とチューターを含め約170人、関係職員約30人の計200人が参加した。

タイ国出身のスティワラピバック・ピラーポン君とコンスクバセット・ララナさん（両者とも社会基盤工学博士課程2年生）の司会挨拶で開会。次いで小宮山研究科長のご挨拶、岸尾国際交流委員会委員長の乾杯で新入生を歓迎した後、各国留学生によるスピーチも行われ、また、多くの外国語が飛び交う歓談となった。

会の途中でビンゴゲームも始まり、ささやかなプレゼントに留学生は大喜びで、盛会裡に午後7時30分頃に閉会となった。



懇談会風景

（大学院工学系研究科・工学部）

国電気電子学会コンピューター協会（IEEE Computer Society）によって運営されており、毎年、並列計算機を実用的な科学技術計算に応用し、最も優れた性能を出したグループに与えられる。今回の受賞は、東大で開発した天文シミュレーション専用計算機GRAPE-6を使った銀河中心でのブラックホールの運動のシミュレーションで世界最高の計算速度を実現したことに対するものである。



福重助手

牧野助教授

（大学院理学系研究科・理学部）

2001年ゴードン・ベル賞受賞についての記者会見

平成13年12月17日（月）に理学系研究科牧野助教授および総合文化研究科福重助手の2001年ゴードン・ベル賞受賞についての記者会見が行われた。

会見には、牧野助教授および福重助手、佐藤理学系研究科長、ゲラー理学系広報委員長が出席し、牧野助教授から受賞に関する発表が行われた。発表内容は以下の通りである。

牧野助教授および福重助手が受賞したゴードン・ベル賞はハイ・パフォーマンス・コンピューティングの世界におけるもっとも権威ある賞の一つである。本賞は、米

附属水産実験所「浜名湖をめぐる研究者の会」を開催

ウナギ、アサリ、カキなど、多くの浜名湖ブランドの産品を生み出してきたこの豊かな湖も、近年漁獲高の急速な減少に直面している。この浜名湖の弁天島にある大学院農学生命科学研究科附属水産実験所は、毎年この時期に「浜名湖をめぐる研究者の会」を催しており、今年で10回目を迎えた。研究者の会とはいっても、東大や同じ浜名湖弁天島に拠点を置く静岡県水産試験場浜名湖分場、近隣の大学等の専門家だけでなく、漁業関係者、行政、市民団体、高校のクラブ活動などからの報告も含めたユニークな会である。

今回は12月15日に開催。発表演題は25題、参加者は90名を越えた。

浜名湖の物理環境は1970年代に安定したかに思われたが、その後、大きく変わってしまったらしい。静岡県立大学のグループによる堆積物中光合成色素の解析は、それに伴う生物相の変化を明瞭に示している。要因の一つに浜名湖に注ぐ数少ない河川である都田川にダムができ、淡水の流入が減少、そして汽水湖だった浜名湖の塩分濃度が上昇してしまったことが上げられる。実際、淡水の流入不足がアオサの繁茂を引き起こし、生物相を貧弱化させている例が漁業者から報告された。80年代以降、実際に潮汐の状況が変化したのかどうか、再調査が提案された。

その他、浜名湖の隣にあり汚染の著しい佐鳴湖をシジミで浄化しようという浜松湖南高校自然科学部の取り組み、水産研究者からは見向きもされないフナムシの研究に取り組んだ浜松医科大学の報告などがユニークであった。もちろん、水質や生物相などの地道な研究も多く報



緊張した様子で発表する高校生



真剣な討論

告された。

できてしまったダムを取り壊せというのも現実的ではないだろう。浜名湖は海水流入できれいになりすぎた、もっと汚くすることが漁業再生への道であるという漁業者からの声も上がった。今後どのような方策があり得るのだろうか。大いに考えさせられる。研究者からも厳密さばかり追い求めるのではなく、現場からの声にすぐに応えられるような、もっとラフな研究も必要であるとの反省の声が聞かれ、意義深い会合となった。

(大学院農学生命科学研究科附属水産実験所)

東アジア四大学フォーラム2001ハノイ会議が開かれる

去る11月24日・25日に、東アジア四大学フォーラムの2001年度会議が、ベトナムの首都ハノイで開かれた。

東アジア四大学フォーラムは、国立ソウル大学、北京大学、ベトナム国家大学ハノイ校、東京大学の四大学の構成員が一同に会して、各国における大学基礎教育の現状を紹介するとともに、将来に向けた相互協力体制を強化することを目的に創設された常設機構であり、すでに東京（1999年）、北京（2000年）でシンポジウムを開催してきた。3回目に当たるハノイ会議は、前回は大きく上回る約100名の参加者を迎え、「大学間の共通文化の創造」を全体テーマに掲げ、高等教育における東アジア的価値やカリキュラムの理念・現状などをめぐって、各国の代表が活発な議論を行った。

本学からは、佐々木毅総長、古田元夫大学院総合文化研究科長のほか、教官13名、事務官3名、通訳の大学院生3名が会議に参加した。

2日間の会議を終えるにあたり、次回の会議の主催校である国立ソウル大学から、フォーラムの今後の継続的な活動についての提言があり、来年度は10月12日・13日にソウルでシンポジウムを開くことが合意された。

なお、ハノイ会議に合わせて、東京大学教養学部とベトナム国家大学ハノイ校社会科学人文学院との間に締結された短期交換留学（AIKOM）協定の調印式が行われた。



東アジア四大学フォーラムに参加した各大学の総長



AIKOM協定調印式の佐々木総長

(大学院総合文化研究科・教養学部)

大学院教育学研究科・教育学部 初の外国人留学生バス見学旅行実施される

11月7日(水)に、大学院教育学研究科・教育学部としては初めての外国人留学生バス見学旅行(目的地:国立天文台野辺山宇宙電波観測所及び清里高原)が実施された。

現在、本研究所・学部には11ヶ国、69名の外国人留学生が在籍しているが、その内留学生23名、家族(配偶者、子供)6名、チューター1名、外国人客員研究員1名、藤田英典学部長以下教官・事務職員11名の計42名が参加し、大型バス1台で移動した。

出発当初はやや曇っていたが、東京を出る頃には秋の澄み切った青空に変わり、旅行日和となった。工事渋滞のため往路が予定よりも長い時間を要したが、その分車中で留学生の自己紹介や歌などで、和やかに楽しいひとときを過ごすことができた。

途中八ヶ岳高原大橋付近で、遠くにくっきりと描かれた八ヶ岳を背景に、全員で記念写真に収まった。その後、清里まきば公園にて昼食を取った後、自由散策の間羊や山羊に語りかけたり、サッカーあそびや写真撮影に興じたりと、留学生同士及び教職員らとの交流が広がった。

次いで、国立天文台を訪れ、大学院生2名から施設内を詳しく案内していただいた。特に世界最大級の45m電波望遠鏡や、太陽電波観測用の84台のアンテナの並ぶ電波ヘリオグラフの姿には、一様に惹きつけられていた。

野辺山を後に、帰路につく頃には、急速に夕暮れが迫ってきた。車中は、おしゃべりを楽しむ者やひと休みしている者とまちまちであったが、いずれも充実した顔の表情であった。赤門に到着したのは午後8時を過ぎていたが、特に事故もなく、皆楽しく旅行を終えることができた。

小さな部局とはいえ、ともすれば特定の人々との接触到に終わりがちの留学生の生活の中で、同じバスに乗り、見聞を広めると同時に交流を深める機会となったこの初

めの旅行は、留学生一人一人の胸に刻まれる思い出がつけられたことであろう。

そして、翌週の教授会では、次年度の正式な年間行事のひとつとして、バス旅行が早々と組み入れられた。



八ヶ岳を背景に全員で写真撮影



国立天文台野辺山での見学

(大学院教育学研究科・教育学部)

医学部附属看護学校及び医学部附属助産婦学校の閉校について

医学部附属看護学校は、明治20年看護法講義及看病術実地訓練として、また医学部附属助産婦学校は、明治23年に産婆養成所として設置されました。

その間、医学部附属看護学校は5,500名、医学部附属助産婦学校は2,600名の有能な人材を輩出し、医療や教育の現場において多大の功績を果たして参りましたが、このたび、平成14年3月31日をもって医学部附属看護学校は114年、医学部附属助産婦学校は111年の歴史に幕を閉じることになりました。

これに伴い、本年3月に医学部附属看護学校及び医学部附属助産婦学校それぞれの閉校式典が関係者を招いて挙行される予定となっています。

(医学部附属看護学校・医学部附属助産婦学校)

近代医科学記念館開設記念式典が開かれる

医科学研究所は、白金台の敷地内に近代医科学記念館を開設したことに伴い、去る12月5日（水）午後1時30分から、同研究所の講堂において約180名の列席者を得て開設記念式典を開催した。

同式典は、新井所長から医科学研究所の歴史、近代医科学記念館開設に至る経緯、趣旨等を含めた式辞に続いて、佐々木総長が挨拶し、近代医科学記念館開設のお祝いと医科学の発展に対する期待の言葉が述べられた。続いて文部科学省大臣官房坂田審議官をはじめ、理化学研究所竹市発生・再生科学総合研究センター長、北里研究所大村所長、慶應義塾大学北島医学部長、北里研究所北里社長の諸氏からそれぞれ御祝辞が述べられた。

休憩をはさんで同記念館の名誉館長である小高名誉教授から、いわゆる年史には登場しない、しかし、興味深い医科学研究所の歴史的一面と近代医科学記念館の展示内容等ユーモアを交えた紹介があり、引き続き、新規開設された合同ラボ棟・治療ベクター棟及び国内最大級となっている臍帯血バンクについて、所長、病院長から紹介・説明があった。

また、記念講演として、当日特別にご依頼申しあげた加賀乙彦先生から「医学と文学－鷗外、茂吉、杳太郎、秋桜子」と題して、造詣の深いご講演をいただいた。

そして式典は、記念館の施設見学、祝賀会と運んで、午後7時過ぎに滞りなく終了した。

近代医科学記念館は、医科学の歴史（歴史館）と医科学の挑戦（現在・未来館）で構成されていて、明治25年に始まる医科学研究所（当時は「伝染病研究所」）の歴史と医科学の進歩の過程、また、医科学研究の現状や先端医療開発の状況などを資料と映像を交えて紹介しています。

「歴史館」は、伝染病研究所として設立されてからの北里柴三郎博士や赤痢菌を発見した志賀潔博士らの業績などを紹介していますが、医科学研究所が保有する多数の資料の一部の展示となっているため、適宜、資料を入れ替えながら皆様にご覧いただくことを考えています。また、「現在・未来館」については、生命・医科学の基礎研究、ゲノム医療や細胞・遺伝子治療等の先端医療の開発・研究の紹介となっていますが、今後、体験コーナーなどの設置と、更にデジタル機器を増設して、研究資料として残されている歴史的な記録フィルムの紹介や他の博物館とネットワークを結ぶなどの充実を図っていく予定です。

延べ約280平米に約50点の資料を展示し、将来は市民向けのセミナーなどの開催も検討しています。

コーヒーやお茶など楽しむスペースもありますので、少しくつろいだ気分を味わっていただくことも出来ると思います。皆様のご来館をお待ちしております。

場 所：医科学研究所の正面に入って直ぐの左側
（地下鉄「白金台駅」日吉坂方面出口から徒歩30秒）

開館時間：平日は、午前10時から午後6時まで
土・日曜日、祝日は、午前10時から午後5時まで

休 館 日：月曜日及び年末年始（12月28日から1月4日までとその前後に引き続く土・日曜日）

問い合わせ先：医科学研究所管理課
（TEL03-5449-5572）



佐々木総長挨拶



医科学研究所新井所長挨拶



近代医科学記念館

（医科学研究所）

技術職員研修「真空技術関係」行われる

平成13年度東京大学技術職員研修「真空技術関係」が、去る10月17日（水）～19日（金）の3日間に渡って、柏キャンパスの物性研究所において開催された。

この研修は、真空を取り扱う初心者を対象に、広範囲の理工系実験の基礎となっている真空技術の知識及び技術を習得させ、技術職員としての能力、資質の向上を図ることを目的として、先端領域研究部門の技術職員と教官が中心となり企画・実施された。

研修は、実際に真空装置を取り扱う際に必要となる基本的な知識と技術を、出来る限り受講者が自身の体験として身に付けられるよう、また自身の研究との結びつきも学べるような内容で構成された。

1日目は、ポンプの構造や真空ゲージの測定原理など真空を扱うために必要とされる基礎的な知識から、漏れ探し、ベーキングなど、より良い真空を作るための技術的側面、さらに真空技術と物性研究（主に表面や微細構造での物理現象の解明）との関わりなどについて講義された。特に後半では、先端領域研究部門における超高真空を利用した最先端の研究に触れてもらうことで、「真空技術」の重要性を認識できる物性研究所ならではの有意義な講義となった。

2日目には3つのテーマで実習を行った。最初の実習では、簡易な真空系を用いた配管のコンダクタンス測定と、リークディテクタを使った漏れ探しを行った。形状の異なる配管を用いて真空槽を排気するときの真空度の時間変化を測定し、その結果から配管のコンダクタンスを求め、配管の形状が真空作成に影響を与えることを確認した。

次の実習では、ターボ分子ポンプによる真空槽の排気操作を体験するとともに、四重極質量分析計を用いた残留ガスの分析を行った。ガス分析では、得られたスペクトルから導入したガスの同定を行った。また、ガスの導入や大気開放によって悪化した装置の真空度が、ベーキングによってより高い真空度に到達することを確認した。

最後の実習では、超高真空下で行う表面物性の実験として、シリコン（111）7×7再構成表面の低速電子線回折の実験を行い、超高真空環境下での試料の清浄化やシリコン（111）表面に特有のDAS構造の観察を行った。

3日目の先端領域研究部門施設見学では、様々な超高真空を用いた実験装置を見ながら、物理、化学、工学の幅広い分野で真空技術が活かされていることを紹介した。また総括では、教科書ではあまり触れられない、真空を扱う現場ならではのノウハウや考え方も受講者の扱う真空装置に即して議論した。また、研修の1日目にお互いの親睦を深めるために、所長、事務部長も含めて受講者とスタッフで懇親会を行った。

受講者はしっかりと目的意識を持ってこの研修に臨んだため、熱心に取り組み、講義や実習が予定していた時間をオーバーすることもあった。また、講師を担当した技術官や所員もその熱意に応え、解りやすい講義や

実習を準備した。そのため、有意義な研修であったとの声が多数寄せられ、大成功のうちに3日間の研修を終了した。



（物性研究所）

≡ 掲示板 ≡

総合図書館備付け図書の推薦について

総合図書館では、学生の学習・研究を助け教養をより豊かにするために、全学の教官（常勤講師以上）から図書を推薦していただく制度を設けております。

つきましては、平成14年度夏学期授業に向けて下記のとおり図書の推薦をお願いします。

1. 取りまとめ窓口 各部局図書館（室）
2. 推薦期限 平成14年2月7日（木）
なお、その他の図書の推薦は常時受付けます。
3. 推薦方法
総合図書館備付け図書推薦要領による。
(附属図書館)

小石川植物園後援会主催第33回講演会のお知らせ

小石川植物園後援会主催の講演会を開催致します。第33回講演会は小石川植物園で行います。今回は「植物たちの子孫繁栄㊦マニュアル」というタイトルで多田多恵子講師に講演をしていただきます。多田講師は東京大学大学院博士課程で植物の繁殖戦略を研究され、著書に「花の声」（山と溪谷社）、新聞や雑誌にも連載エッセイを書いておられます。目下、最大の興味は植物vs虫や鳥や獣の駆け引きだとか。巧妙な受粉システムや種子散布など、美しいスライドで植物と㊦のお話が楽しめると思いますので皆様お問い合わせのうえ奮ってご参加ください。

講師：多田多恵子
(東京農工大、立教大、淑徳短大非常勤講師)
日時：平成14年2月23日（土）午後1時～3時
場所：小石川植物園 3階会議室
(文京区白山3-7-1 TEL03-3814-0294)

参加ご希望の方は、2月18日（月）までに往復ハガキにて世話人の下園までご連絡ください。なお、会場の都合上、先着35名で締め切りとさせていただきますのでご了承ください。

問い合わせ先
〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1
東京大学大学院理学系研究科附属植物園内 小石川植物園後援会
世話人：下園文雄 Tel 03-3814-0294

「教養学部報」第453号（1月9日）号の発行
——教官による、学生のための学内新聞——

石井洋二郎：ロートレアモンへの誘い——新訳全集を刊

行して

山本 吉宣：21世紀の安全保障——グローバル・セキュリティの必要性

鍾 非：個人主義と集団主義

大森 正之：駒場祭を終わって

〈研究所めぐり〉

諏訪 元：総合研究博物館——「モノ」の面白さを極める、総合研究博物館

宮崎 勝美：史料編さん所——新世紀の史料学研究・史料編纂を追求する

〈本の棚〉

小林 寛道：本村凌二著『馬の世界史』

水野 一乗：石井直方著『筋と筋力の科学』

第1巻・重力と闘う筋

第2巻・筋を鍛える

山脇 直司：松原隆一郎著『経済思想』

市場社会観の変遷と現在の消費不況

〈時に沿って〉

渡邊 日日：ある未完の序曲

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、図書館入口、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

第14回保健センター公開健康講座

「アレルギー疾患 特に気管支喘息とスギ花粉症の予防について」

講師：保健センター健康管理室 木谷誠一

日時：平成14年1月24日（木）午後4時～

場所：山上会館 会議室201・202

問い合わせ先：保健センター健康管理室 内線22579

アレルギー疾患は、あらゆる年齢層で、近年増加している。気管支喘息の危険因子として、遺伝因子、環境因子、寄与因子、喘息増悪因子と多様であり、かつ多段階の病態生理も経る。そのため、アレルギーの予防法も、一般感染症と異なり、多岐に亘る。一次予防として、早期介入の提唱、標準的な予防としてアレゲン回避の方法、文明論をも巻き込む食生活の見直し、より完治をめざす特異的減感作療法を紹介する。生活習慣病の側面も強調したい。また、二次予防として抗アレルギー薬による予防的薬物療法、予防維持法として吸入ステロイドのレギュラーユースを紹介する。ピークフローや喘息日誌による症状の自己認知によるセルフコントロールの強化、健康教育もさらに望まれる所である。今年のアレルギー講座は、特に、喘息死の危険をはらむ気管支喘息と迫りくるスギ花粉症について説明する。

(保健センター)

Web of ScienceからOPACへのリンク機能追加のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、このたび学内ネットワークで提供している引用索引データベース「Web of Science」の機能を拡張しました。これにより、検索結果からOPAC（東京大学オンライン蔵書目録データベース）へのリンクが可能になりました。

検索結果・詳細表示画面の右上に、新しいボタン **HOLDINGS** を表示しました。このボタンをクリックするとOPACを自動検索しますので、該当の論文を掲載している雑誌が学内で所蔵されているかどうか、また、どこに所蔵されているかを瞬時に確認することができます。

さらに便利になったWeb of Scienceをどうぞご活用ください。

Web of Science：

<http://wos.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/wos/CIW.cgi>

[データベース範囲]

収録年：1980年～2002年

収録件数：約2,120万件（2002年1月現在）

データの更新頻度：毎週

収録内容：全分野にわたる主要な学術雑誌（約8,000誌）に掲載された論文の書誌情報と引用文献情報。



また、「Web of Science」をはじめとしたデータベースの利用に関する出張講習会も実施しています。ご希望の時間で研究室までお伺いしますので、ゼミや授業等どうぞご活用ください。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/shuccho.html>
問い合わせ先

情報基盤センター学術情報リテラシー掛（内22649）

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

データベース講習会のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース講習会を実施します。データベースを利用した最新の文献調査方法に関する講習会です。どなたでもお気軽にご参加ください。

[データベース出張講習会]

ご要望に応じた内容で研究室までお伺いします。授業やゼミ等でご活用下さい。

希望の日時、内容等をメールでお知らせ下さい。スケジュールを調整の上、折り返しご連絡します。

●申込み先 学術情報リテラシー掛（22649）

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

[データベース定期講習会]

パソコンを使った実習を中心にしたコースです。なお、ご希望の多かった夕方からのコース（18時～19時）を増設しました。

参加予約は不要です。時間までに会場に直接お越し下さい。

●会場

総合図書館1階メディアプラザⅠ 講習会コーナー

●定員 12名（先着順）

●各コースの内容

コース名	内 容
入門コース	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。 ・OPACなど基本的なデータベースを使った検索実習を中心とします。
実践コース(1) 文献データベース	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 ・雑誌記事索引データベースをはじめ、各専門分野の文献データベースの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
実践コース(2) 引用索引データベース (Web of Science)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 ・引用索引データベース (Web of Science) の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。

●スケジュール (1月～3月)

月	火	水	木	金
	1/1	1/2	1/3	1/4
1/7	1/8	1/9	1/10	1/11
1/14	1/15 15:00—16:00 実践(1)	1/16	1/17	1/18 15:00—16:00 実践(2)
1/21 18:00—19:00 入門	1/22	1/23 11:00—12:00 実践(1)	1/24	1/25
1/28	1/29 11:00—12:00 実践(2)	1/30	1/31 15:00—16:00 実践(1)	2/1
2/4	2/5	2/6 18:00—19:00 実践(2)	2/7	2/8 11:00—12:00 入門
2/11	2/12 15:00—16:00 実践(1)	2/13	2/14 18:00—19:00 実践(2)	2/15
2/18 18:00—19:00 実践(1)	2/19	2/20	2/21	2/22 15:00—16:00 実践(2)
2/25	2/26	2/27 15:00—16:00 入門	2/28	3/1 18:00—19:00 実践(1)
3/4	3/5 11:00—12:00 実践(2)	3/6	3/7 15:00—16:00 実践(1)	3/8
3/11 18:00—19:00 実践(2)	3/12	3/13	3/14 11:00—12:00 入門	3/15
3/18 15:00—16:00 実践(1)	3/19	3/20 18:00—19:00 実践(2)	3/21	3/22
3/25	3/26	3/27	3/28	3/29

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

(情報基盤センター)

≪ 事務連絡 ≫

人 事 異 動 (教 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
13. 12. 31	馬 場 一 憲	(辞 職) 辞 職	大学院医学系研究科助教授
13. 12. 16	岩 瀬 博太郎	(復 職) 大学院医学系研究科助教授	大学院医学系研究科助教授
13. 12. 17	高 山 吉 弘	(採 用) 大学院医学系研究科助教授	福井赤十字病院神経内科部長
14. 1. 1	阿 部 弘 亨	大学院工学系研究科附属原子力工学研究施設助教授	日本原子力研究所高崎研究所材料開発部副主任研究員
〃	山 川 卓	大学院農学生命科学研究科助教授	三重県科学技術振興センター水産研究部主査
14. 1. 1	渡 辺 裕	(昇 任) 大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科助教授
〃	佐 藤 孝 之	史料編さん所教授	史料編さん所助教授
〃	木 暮 一 啓	海洋研究所教授	海洋研究所助教授
〃	西 田 周 平	海洋研究所教授	海洋研究所助教授
14. 1. 1	横 山 利 彦	(転 出) 岡崎国立共同研究機構分子科学研究所分子構造研究系教授	大学院理学系研究科助教授
14. 1. 1	町 田 和 雄	(転 任) 大学院工学系研究科教授	独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員
〃	渡 辺 淳 子	大学院農学生命科学研究科助教授	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科助教授
〃	石 川 裕	大学院情報理工学系研究科助教授	独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員
14. 1. 1	渡 辺 智 之	(併 任) 大学院法学政治学研究科附属ビジネスローセンター教授	財務総合政策研究所研究部長
〃	長 棟 輝 行	工学部化学生命工学科長	大学院工学系研究科教授
14. 1. 1	多比良 和 誠	(併任解除) 大学院工学系研究科教授	工学部化学生命工学科長

人 事 異 動 (職 員)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
13. 12. 31	西 川 皓	(辞 職) 辞 職	経理部経理課課長補佐 (共済担当)
14. 1. 1	芦 立 訓	(転 任) 経理部長	文部科学省初等中等教育局教育課程課企画室長
〃	山 田 泰 二	施設部長	九州大学施設部長
〃	守 屋 孝 子	経理部経理課課長補佐 (共済担当)	理学系研究科等給与掛長
〃	小 澤 靖	理学系研究科等給与掛長	海洋研究所経理課司計掛主任
14. 1. 1	菅 原 秀 章	(転 出) 宮崎医科大学事務局長	経理部長
〃	柳 澤 昌 俊	豊橋技術科学大学事務局長	施設部長



一英斎芳艶画「東海道之内 藤之杜走馬」
左画・文久3（1863）年4月 右画・文久3年5月
東京大学史料編さん所蔵

山城国藤之杜社（藤森神社、伏見区深草鳥居崎町）の5月5日の祭礼で行なわれていた「走り馬」の光景。将軍として230年ぶりに上洛した徳川家茂が見物している。「走り馬」は勇ましいが、その向かう方向が問題である。

≡ 訃報 ≡

中尾 喜久 名誉教授

本学名誉教授 中尾喜久先生は平成13年6月21日に病気のために御逝去なさいました。享年89歳でいらっしやいました。先生は、明治45年1月22日茨城県でお生まれになり、旧制水戸高等学校を経て、昭和12年に東京帝国大学医学部医学科を御卒業になり、呉内科、佐々内科（のちの第二内科）で内科学の研鑽を積まれました。昭和22年に沖中内科（のちの第三内科）にお移りになり、講師、助教授を経て、昭和33年に群馬大学医学部第二内科の教授に就任され、昭和38年に沖中重雄教授の後任として東京大学医学部内科学第三講座を御担当になりました。昭和47年に東京大学を定年により御退官されると新設された自治医科大学学長に就任され、平成8年まで24年間に亘って自治医科大学の学長をお務めになりました。



先生は、内科学全般に及ぶ巾広い学識と鋭い洞察力を持った医学者であり、長年に亘って教育、研究、臨床に力を尽されました。低く少しかすれたような声で語りかける重厚で威風堂々とした臨床講義は多くの学生を魅了しました。先生の医学研究は広い分野に及びましたが、特に血液学において独創的な研究を展開されました。形態学的研究が中心であった血液学の領域に生化学的、細胞生物学的手法を取り入れ、中でも赤血球産生を促進する造血因子エリスロポエチンについて、世界から高く評価されている多くの研究成果を挙げられました。造血幹細胞の存在を早くから指摘され、造血因子の研究と相俟って、我が国におけるこの領域の研究の基盤を確立さ

れました。封建的な風潮が強かった時代に若い研究者が自由に研究できる環境を整えるべく努力されたことも先生のお人柄と先見の明を示すものと言えましょう。なお、東大教授在職中は大学紛争に遭遇され、様々な御心労をなめられましたが一言も愚痴をこぼさず、毅然とした態度を貫かれました。

自治医科大学では初代学長として様々な新機軸を打ち出され、自治医科大学を我が国有数の医科大学に育て上げられました。我が国の僻地医療に多大の貢献をされると共に、多くの人材を育成され、多くの東大医学部教授が自治医科大学在職者から選ばれています。

先生は多数の学会に貢献されましたが、昭和58年から62年まで第22回日本医学会総会会頭をお務めになりました。先生の赫々たる御業績に対して、昭和59年に勲一等瑞宝章が授与され、平成5年に学士院会員に推挙されました。また、昭和53年には昭和天皇に御進講の榮に浴しておられます。

先生は、病気の科学としての医学を臨床の場に適正に活用するためには常に慎重であるべきこと、その際重要なことは病む人の人権、人格の限りない尊重であること、さらに現代医学でもなし得ない限界のある臨床における医療のあり方について、身をもって多くの人を指導されました。

先生の御逝去は、後進にとりまして医師、医学者の進むべき方向を示す重要な道標を失ったとの感を深く致します。ここに長年に亘る先生の御指導に心から感謝申し上げますと共に、謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

(大学院医学系研究科・医学部)

三枝 正裕 名誉教授

本学名誉教授 三枝正裕先生は平成13年10月19日（金）、病気のため逝去されました。享年80歳でいらっしやいました。先生は大正10年3月4日に広島県呉市にお生まれになり、昭和20年9月に東京帝国大学医学部を卒業され、同年10月に都築外科に入局されました。



当時木本誠二先生を中心に開発が進められていた心臓外科の研究に従事され、その成果は「非チアノーゼ性先天性心疾患の血行動態に関する研究」としてまとめられ、昭和31年この研究に対し医学博士の学位を授与されました。先生は昭和33年5月に昭和医科大学教授に就任され、外科学を担当されましたが、昭和36年9月に心臓外科グループのチーフとして母校に戻られ、東京大学講師に就

任されました。昭和40年5月に東京大学助教授に昇進され、昭和43年4月には、木本誠二教授の後を受けて、第二代の胸部外科学講座教授に就任されました。当時は大学紛争のさなかにあり、研究もままならぬ状態でしたが、先生は誠心誠意その收拾に努力されました。その後臨床や研究が正常に行われるようになり、アルコール保存同種弁、無輸血体外循環、刺激伝導障害、心臓超音波検査法、心筋保護法などについて優れた研究業績を残されました。

先生は教授在職中に東京大学評議員、東京大学医学部附属病院院長等を歴任され、大学及び附属病院の管理・運営に尽力されました。一方、学外におきましては、第1回日本心臓血管外科協議会会長、第19回日本脈管学会会頭、第32回日本胸部外科学会会長として学術集会を主宰され、日本の心臓血管外科の発展に尽力されました。ま

た先生は、昭和48～50年国際心臓血管外科学会副会長、昭和48～54年同学会アジア支部総務幹事、昭和61～平成3年同学会アジア支部長を歴任され、日本の心臓血管外科の国際化に大きく貢献されました。

昭和56年に東京大学を定年退職されましたが、昭和62年までは国立療養所中野病院院長として、さらに平成9年までは所記念病院理事長・院長として地域医療に尽くされました。平成6年からは日本心臓ペースメーカー友の会の会長も務められました。

近藤 一夫 名誉教授

本学名誉教授の近藤一夫先生は、2001年12月1日、病気のため90才で逝去された。近藤先生は、昭和9年に東京帝国大学工学部航空学科を卒業ののち、同大学航空研究所、九州帝国大学工学部講師、同助教授、名古屋帝国大学助教授、同教授を歴任され、昭和21年2月に東京帝国大学教授に転任され、第一工学部応用数学第五講座を担当された。その後の学内改組等に伴って、工学部計数工学科を担当され、昭和46年3月にそこで定年をむかえられた。



近藤先生は、終戦までの間は、空気力学に関する一連の研究を精力的になされ、特に「プロペラに関する空気力学のポテンシャル論的研究」で棋界の第一人者としての地位を築かれた。終戦後は航空学科の廃止に伴い、工学の基礎問題を考究する数理工学の分野へ進まれ、航空学時代の研究の背景となっている応用数学の基礎を駆使

先生は我が国の心臓血管外科の黎明期から心臓血管外科の発展に尽くされ、現役を退かれてからも学会を通して後輩の指導に情熱を傾けられました。先生が心臓血管外科に注がれた情熱は教室の後輩のみならず、日本の全ての心臓血管外科医に脈々と引き継がれています。ここに先生から頂戴いたしましたご指導に心からの感謝を捧げますとともに、謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院医学系研究科・医学部)

して、回路のトポロジー、工学力学系の幾何学、観測の幾何学、弾性及び塑性の幾何学的研究などの業績を積み重ねられた。その中でも非リーマン塑性論の体系を創始された業績は特に有名である。これは、金属材料中の転位分布を材料空間における振率発生之源として捉え、材料の微視的な格子欠陥と降伏などの巨視的な振舞いとを結びつけることによって統一的な理論体系を築いたものである。さらに、数理音声学の開拓をはじめとして自然哲学の分野へも進まれ、言語学、音楽学、色彩論、物理学の基本認識に関する統一的な世界観を構築されている。

これらの研究活動は内外で高い評価を受け、昭和27年度毎日学術奨励賞を授与されるとともに、大英テンソル学会名誉会員、米国学術アカデミー外国人名誉会員、イタリア・ポンタニア・アカデミー外国人名誉会員などの国際的栄誉も受けられている。

ここに近藤一夫先生を偲び、つつしんで哀悼の意を表するものである。

(大学院工学系研究科・工学部)

福田 仁志 名誉教授

本学の名誉教授、福田仁志先生は、平成13年9月29日、病気のため逝去されました。享年95歳でした。葬儀は、10月4日、東京中野の落合斎場において、多数の方々の参列を得て、しめやかに執り行われました。



近年、先生は、青梅の「慶友病院」にご入院になっており、手厚く看護され、無事にお過ごしと伺っておりました。それだけに、ご逝去の報は、私どもにとって、悲しみとともに驚きでもありました。

先生は、お生まれは、和歌山県でしたが、滋賀県に移られ、彦根中学校、第四高等学校を経て東京帝国大学農学部農学科農業土木専修に入学され、昭和5年にご卒業、同年東京帝国大学農学部の教官として助手になられました。その後同じく講師に、また同助教授になられました。ご研究については、初期の頃は、物理学に対するご関心

がお強かったと思われまふ。物理学者である寺田寅彦とのご親交があったこととも関連するかもしれません。先生の最初のご論文は、霜柱についてのご研究で、ドイツ語で書かれておりました。昭和30年に49歳で教授になられ、農業工学第二講座担任となられました。この講座は、昭和38年に、農業水利学講座と名称を変更しまして、先生は、農業水利学講座の初代の担任教授になっておいででした。当初は、研究室全体が、土壌物理学への傾斜が強かったようですが、先生はその後、農業水利学あるいは水文学に向けて研究を深められ、幾多の貴重な論文を著わされておられます。また技術者の持つべき哲学に強い興味を持っておられました。

先生は外国に対するご関心も深く、助教授時代にアメリカ留学をされて以後も、たびたび外国に出張し視察をされておられます。昭和37年には、国際灌漑排水会議(ICID)の副会長になられました。後年に至るまで、先生は海外旅行を盛んにされ、それらは、「世界の灌漑」

およびその英文版「イリゲーション・イン・ザ・ワールド」としてまとめられています。昭和42年に、東京大学を停年退職されました。ご退職後は、農林省の灌漑排水審議会会長として、また海外技術協力事業団参与として、三祐コンサルタント株式会社顧問として、その他、幾多の要職につかれてご活躍でしたが、それも最近は順次に少なくされておられました。

先生は、文章を書くのがお好きで、沢山の文章を残されました。日頃の随想を、「白雲遊記」等のご本にしておられます。また何事にも興味を持たれ、吸収しようと

され、自身の修養を積む、ということにつねにご関心がありました。学生時代から後年にいたるまで、ずっと座禅に興味を持たれ、実践をしておられました。ご研究の面だけでなく、教育面でも、数多くの人々が先生のお教えを受け、各界で活躍されていることは言うまでもありません。いろいろの面で、我々にいくつもの貴重なお教えを残していただきました。

ここに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院農学生命科学研究科・農学部)

東大型PBL教育導入の奨め

学問と世間（阿部謹也著）によれば、出発点における大学は、個人の完成度を追求する場であったという。この点が実務学校と違うところであった。しかしながら先の見通しが立て難い時代となり、大学教育のあり方が問われる時代を迎えた。今日的な大学教育の目的のひとつは、技術レベルと業務レベルの難易度が的確に分かり、周りの人に理解させられる学生の養成ではなからうか。この目的のためには、PBL教育の手法が適合していると筆者は考える。

PBLとは、プロジェクトまたはプロブレムベースラーニング（日本語では問題設定型学習法）のことで、従来の教育手法が、知識伝達に重点を置き、問題解決手法を身につける態度をとっているのに対し、この方法では、実際の問題や実社会で発生している問題にグループで取り組むことで問題設定能力を涵養する点に重点が置かれている。昨年第2回PBL教育国際会議がスウェーデンのリンシエッピング大学で開催された。日本からの唯一の参加者であった小生は、この教育法が、医学、看護学、工学、ソフトウェア工学、数学を始め様々な分野に取り



入れられていることを知った。また、グループ作業を通じての作業評価重視の姿勢は、現在強く求められている「評価、選択、配分」のポイントが分かる人を育てるために重要となるであろうことが容易に想像できた。

今こそ東大の学風に合ったPBL教育プログラムを考える時期である。卒論や修論の準備段階の学部3年次や大学院修士1年次に導入すれば、研究者をめざす人には研究に入る前のスキルの獲得、マネージャーをめざす人には、デマンドサイドとサプライサイドの両

面からの「ものの見方」が経験できる貴重な機会を与えることになる。また、研究室にとっては研究技法の伝承に役立つとともに現実社会の変化のスピードや複雑性を感じる良い機会となるという副次的メリットももたらす。さらに、ITを活用した外部機関との教育における連携という新しい道も開けそうである。

なお、第3回のPBL教育国際会議は、デラウェア大学で来年6月に開催される予定である。会議のHPを覗くと会議の案内だけでなくPBL教育に積極的に取り組んでいるさまざまな大学のサイトにリンクが張られていて、PBL教育の歴史や現状を知るのに便利である。是非一度 <http://www.udel.edu/pbl/> をご覧戴きたい。

（大学院工学系研究科 金子成彦）

（淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

[次号の原稿締切]

2月6日（水）午後5時

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1228

2002年1月23日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>